

読者の声

自虐的な映画に注意を！

会社員 東京都・男性 (59)

■ある映画の公開予定を報じる週刊誌の記事に、「1023年9月1日の関東大震災から5日後、千葉県福田村（現・野田市）で朝鮮人と間違われた日本人9人が村人に殺害される事件があった」とありました。関東大震災の発生は1923年です。こんな初歩的な間違いをし、編集部のもがそれに気付かないとは「さすが週刊誌」と思ってしまうました。それはさて置き、これを題材にした映画が9月1日に公開されるそうです（この投書が掲

載される頃は公開されているでしょう）。森達也監督の『福田村事件』です。広

告には「関東大震災後の混乱の中、在日朝鮮人だけでなく日本人も虐殺された事

実が……。不安と恐怖が高まれば、「集団の暴走」はい

つの時代にも起こり得る」と書かれています。この記

事を掲載したのは『ニューズウィーク日本版』という

週刊誌です。日本人の「加害性」を強調するのが流行

っています。この森達也氏は従軍慰安婦について、

「多くの韓国女性が、自

分たちは強制的に連行されたと訴えている。ならば現場レベルでは（国家とか組織とか個人とか多少とか関係なく）絶対に強制はあった。文書や資料が見つかっていないことだけを理由に

「人権」と私たちの義務について

大学生 横浜市・男性 (21)

■『大吼』夏季号の特集「国体論」を読んですつきりしました。今の日本は、何かといえば「人権」が持ち出され、これ以上の価値は無いと言わんばかりの風潮があります。私は「何か違うんだよなあ」と釈然としないまま生きてきました。特に「人権」に迷惑を掛けられたわけでもないのに、どうでもよかったのです。しかし、人間としての権利

して、国家は関与していないとか軍は組織的に関わっていないとの言説は成り立たない」と主張している人物です。映画がドキュメンタリーではなくドラマだとしても、注意が必要です。

を主張できるのは「生まれ

た」からであり「これまでも死なずに済んだ」からでも

あり、そして「人を殺さなかった」からです。国家が

侵略され、もしも滅亡してしまつたら新しい生命は生

まれてこられず、いま生き

ている人々は殺され、侵略に抗う人々は否応なしに敵

兵を殺さなければなりません。つまり「人間としての権利」それ以前に、私たち

は「日本人としての義務」を果たすべきだということに、私は、はたと気が付きました。真の愛国者の言葉には説得力があります。愛読者として感謝いたします。

脱中国の方針を日本政府に求めたい

会社員 埼玉県・男性 (55)

■福島第一原発の処理水海洋放出を巡り、中国や日本国内の反体制派のマスコミ、有識者、芸能人等々が「汚染水」と表現して「海に捨てるな」と牙を剥いています。漁業従事者らの尽きぬ不安は理解できませんが、中国や日本国内の反体制派が処理水放出を政治利用して怒ったフリをしていることには大きな憤りを感じます。中国人が「海を汚してはいけない」と本当に思っているのなら、なぜ河川の水質汚染が発生するのでしょ

う。中国には、揚子江、黄河を始めとする七大河川と呼ばれる有名な川があります。その七大河川の主要部分には深刻な水質汚染が国際的に問題視され、「地下水も汚染されてしまい、飲用水にできない状況」と報じられたのは今から五年以上も前です。大気汚染の深刻さも水質汚染同様に世界的に有名な話です。日本国内の反体制派も、そうしたことには目をつぶり、「そもそも我々は原発に反対だった」という態度で文句を言いますが、「だったら、そもそも君らは節電に努めて

いるのか」と聞いてみたくなるのは私だけでしょうか。冷蔵庫以外の家電は、手間さえ省かなければ必要のないものです。ヘアードライヤーやプロパガンダに利用されているテレビなどを使うのは、もつてのほかです。しかし、それら無駄に電力を消費している家電を使いたい放題に使って、

それでいて「反原発」を唱える。これ以上に滑稽なことがあるでしょうか。そのような恥ずかしいことを彼らが堂々とできるのは、こうした問題を政治利用しているからで、主張を通すためなら手段を選ばないテロと何ら変わりません。脱中国の方針を日本政府に強く求めたいです。



中国の深刻な水質汚染と大気汚染